

企画展

Arpilleras —Daily life and resistance of Chilean women in military regime

アルピジェラ—軍政下 チリの女性たちの暮らしと闘い

さまざまな色の布切れと可愛らしい人形を縫いつけて作られたアルピジェラ、軍事政権下のチリの女性たちが共同作業で作製し、世界の人々に販売してチリの現状を訴えました。

当記念館は2013年に所蔵作品により「アルピジェラに出会う」を初めて開催し、昨年は「軍政下 チリの人々の暮らし」を開催しました。今回は軍政下の困難な状況の下で助け合いながら生活し、闘った女性たちに焦点を当てます。



「女性の権利のための行動」 作者不明 1990年頃

「アルピジェラ—軍政下 チリの女性たちの暮らしと闘い」展に寄せて

東北学院大学 酒井朋子

2013年、2017年に続いて三度目となる大島博光記念館でのアルピジェラ展の開催を、心よりお祝い申し上げます。本記念館はアルピジェラをまとまった数で見ることができる国内唯一の機関です。展示企画を精力的にもち、多くの方がアルピジェラにふれる機会を作ってくださいる関係者のご尽力に、感謝いたします。

アルピジェラは、南米チリの女性たちが古着や余り布から作ったパッチワークです。アウグスト・ピノチェト將軍による軍事独裁期(1973～1990年)に作成されはじめたもので、貧困地区における日々の生活や助け合いの様子、ピノチェト政権下の政治暴力の実態や人びとの抵抗の様子などが、色とりどりの布で描かれます。日常生活の実感を核とし、地域社会で生まれた表現であるアルピジェラは、それゆえの普遍的な政治性や社会性をもっています。遠いサンティアゴの地で作られたアルピジェラが、地域に深く根ざした文化施設である、ここ大島博光記念館にて展示されることの意義を感じます。

軍政期、アルピジェラは、人権団体などの支援を受けてチリ国内外で売られ、貧困に苦しむ作り手にささやかな収入をもたらしていました。日本で組織された支援団体であるチリ人民連帯委員会においても、アルピジェラ購入を通じた支援が行われました。大島博光記念館に所蔵されている作品群は、そうした経緯で日本に渡ってきたアルピジェラであり、チリの人びとと日本の支援者のつながりを示す歴史的な資料でもあります。

今回展示される約20点のアルピジェラの多くは、ピノチェトが退陣した1990年前後に作られました。暴力と抑圧に満ちた過去の記録を未来に伝えていこうとする作品も見られます。加えて、戦争や政治暴力に関わるテキスタイル作品のアーカイヴ、Conflict Textiles(イギリス領北アイルランド)から寄贈された2作品も展示されます。1枚は大島博光記念館所蔵作品よりやや早い時期に作られたもの、もう一枚は、先住民コミュニティの権利と尊厳という現在進行形の問題を題材に2015年に作成されたものです。それぞれ異なる時期に作られたこれらの作品が並ぶとき、暴力の経験とその表現が、どのように形と意味を変えていくのかを考えられるかもしれません。

最後に、アルピジェラを日本に伝え、大島博光記念館にコレクションをご寄贈くださった東京外国語大学名誉教授の高橋正明氏に、そして大島博光記念館所蔵のアルピジェラの記録や分類に多大な貢献をしてくださったConflict Textilesのキュレーター、ロベルタ・パチチ氏に、また、本展覧会の企画と準備、運営に関わる全ての方々に、心より敬意を表します。

2018年5月

2018年5月1日～11月30日 大島博光記念館

解説 一女たちが主役だったー

1973年11月の軍事クーデター後、軍事政権の独裁体制の下で、軍警察による弾圧で多くの人が逮捕されたり行方不明となり、あるいは企業倒産や解雇などで生活が破壊されました。男たちが行方不明となったり無気力化した中、協力して生活をささえあい、闘ったのは女性たちでした。その様子がポブラシオンの日常生活、共同ナベ、失業対策で働く、政治的抑圧、政治行動、孤独なクエカ、行方不明者はどこ？などのテーマでアルピジェラに描かれています。

1 ポブラシオンの日常(作品1、2、18)

アルピジェラの作り手の多くが暮らしていた大衆居住地区の日々の様子を描く作品群です。軍政下の自由主義経済体制のもと、ポブラシオンの住人たちが勤めていた工場の多くは倒産を余儀なくされ、長期的な失業と貧困が大きな問題として浮上ってきます。住民達は、時にはPOJHなどの失業対策プログラムのもとで、あるいは自分自身の力で、どうにか地域のための仕事を見つけようとしていきました。一方で、苦境にもめげず明るく交流しあう人びとの様子も描かれています。

(4面へ続く)

1



ポブラシオンの日常 1
Daily life in a poblacion 1

作者不明 / Anonymous around 1990

ポブラシオンはアルピジェラの作り手の多くが暮らしていた大衆居住地区。苦境にもめげず明るく交流しあう人びとの様子が描かれています。アヒルが平和に遊ぶ池ですが、実際には池は見たことがない(高橋正明氏)といわれるので理想の情景を描いたと考えられます。

2



救急診療所
First aid

不明 / Anonymous around 1990

アルピジェラには太陽、人々に公平に恵みを与える太陽が描かれているのが普通ですが、何故かこの作品にはありません。アンデスが背景にある作品76点のうち56点(74%)に太陽が描かれています。

3



共同なべ 5
Soup Kitchen 5

Mirian Molina 1990

1990年9月5日、ミアン・モリナ「仕事や食べるものがなかったので、子供たちをつれて共同なべに行きました。しかし、ゆっくりですが改善に向かっていきます」共同炊き出しの組織・共同なべは200ヶ所、活動家は4,100人にのぼりました。

4



共同なべ 3
Soup kitchen 3

不明 / Anonymous around 1990

この作品では太陽も盗電の電線も見えません。しっかり描かれているのが、家を囲む板塀(柵)です。ポブラシオンの人々は自分の地所を獲得すると塀で囲みます。最初は粗末な板きれですが、資力がついていくと鉄柵に代えていきます。

5



窓の外を見つめる女性
From the Window (Check Curtain)

不明 (AFDD) / 1990

強い意志を秘めた表情の女性。胸につけているのは行方不明になった家族の写真で、家族を奪った者への怒りと告発をこめているのは間違いありません。

6



孤独なクエカ：町の中で
Cueca Sola: in the Town

Felicia (名字不明) 1990

「クエカ」はチリの伝統的なダンスで、色鮮やかな衣装をつけた男女のペアによって踊られます。軍政期に家族が行方不明となった女性たちは、このクエカをたった一人で踊りはじめました。

7



孤独なクエカ (青と緑)
Cueca Sola (Blue and Green)

不明 / Anonymous around 1990

色彩のない白黒の衣装をまとい、夫や家族の写真を胸に留めての踊りは、政治的なパフォーマンスであるとともに、いなくなった大事な人を思う行為でもあったのです。英国のミュージシャンであるスティングは、1990年、この行動を歌った曲を作り、世界中に広めました。

8

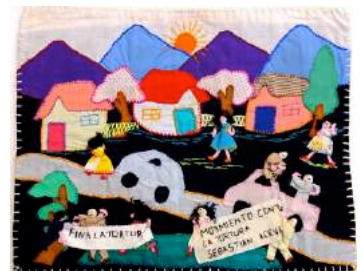


彼らはどこに？：真実と正義を
Where Are the Disappeared? Truth and Justice

不明 / Anonymous around 1990

行方不明者の顔写真とともに「行方不明者はどこに？」「真実を！」「正義を！」とプラカードに書いて抗議行動をしています。

9



MCTSA のデモ：拷問を終わらせよう
A Demonstration by MCTSA: End to Torture

不明 / Anonymous around 1990

「セバスティアン・アセバド拷問反対運動(MCTSA)」によるデモ。軍による拷問がひろく行われ、サンチアゴ市内には拷問の館が160箇所以上にのぼりました

10



ロンケンの死者たち
The Dead of Lonquén

Paula Torre around 1990

ロンケンの石灰鉱山跡地から遺骸が見つかりました。1973年10月にイスラ・デ・マイポの町で逮捕された17歳から51歳の15名の農民でした。1979年2月1500人がロンケン廃坑に向けて行進、犠牲者を追悼し、ネルーダの詩の一節をきざんだレリーフを壁にとりつけました。

11



ロンケン 死者たちはここに眠る
Here lie the dead

Blanca Perez 1990

ブランカ・ペレス「目撃したすべてをお話します。私は軍部が権力を握った年からの私の悲しみと苦しみを伝えることができます。私たちはロンケンに行き、生き埋めにされたすべての遺体と遺骨を見ました」

12



1986年7月3日の政治弾圧
Political repression, 3rd of July, 1986

Isobel Alarcon 1990

メッセージ「1986年7月3日、彼らは静かに家にいた多くの無実の人々を拘留しました。虐待して素足で通りの焚き火を消させました。ナイフで髪を切り、裸で公道に捨てました。チリの7月は冬の最中です」

13



抗議行動の抑圧
Repression to protesters

Yolanda Tobar 1990

メッセージ「人々はひどく苦しめられたために、ピノチェットの抑圧に抗議している。彼らは私の息子をひどく叩き、燃えているタイヤの上を裸足で歩かせました。それから、彼を置き去りにしました」

14



政治弾圧2
Political Repression 2

Margarita Moncada around 1990

「クーデターが起こったとき、私は12歳の少女でした。持っていた本をたくさん焼かなければならなかった。ある時、本を燃やしているとヘリコプターが現れたので、火がついた鍋の上に座って、見つけれないようにしなければなりませんでした」

15



政治弾圧1
Political Repression 1

Bernarda Cubillos around 1990

女性たちが弾圧されています。政府を批判するメッセージを少しでも発したり、政治行動に関わったと疑われた人は、ある日突然姿を消していくのでした。

16



ポブラシオンのPOJH
POJH in a Poblacion 1

Juanita Olivares 1990

「本来は男性のための仕事私たちに与えられたので、私たちは車輪を押したり道路を掃除したりしなければなりませんでした。この仕事はPOJH(失業対策プログラム)と呼ばれていました」

17



失業に立ち向かう
Protesting unemployment

不明 / Anonymous around 1990

軍政下の新自由主義経済により多くの工場が倒産し、失業が大問題に。自治体の失業対策事業は月額2〜3,000円という低賃金で道路の補修や公園の整備などをしました。

18



ポブラシオンの日常3
Daily life in a poblacion 3

不明 / Anonymous around 1990

大衆居住地区の日々の様子を描く作品です。人々は平和に暮らしているようですが、家々には盗電のための電線がはってあります。

19



女性の権利のための行動
Women's Rights Action

不明 / Anonymous around 1990

先頭の二人の女性が広げている横断幕には「私は女性です。権利を持っています」とあります。女性の権利を主張する女性たちを描いたのではないのでしょうか。

20



路上販売業者に対する抑圧
Repression of street vendors

不明 / Anonymous 1985

貧しい人々への抑圧を捉えています。路上の売り手に対して当局が水の強力なジェットを浴びせて弾圧しています。(コンフリクト・テクスタイルから寄贈)

21



反テロリズム法に反対
NO a la ley Antiterrorista 2

Aurora Ortiz 2015

チリの先住民族マプチェ族が土地を守るために政府の弾圧に抵抗し、2010年にハンガーストライキに発展した闘いを描いたものです。今日の民衆の闘いを鮮やかな色彩で訴えていることが印象的です。(コンフリクト・テクスタイルから寄贈)

2 孤独なクエカ(作品6、7)

チリの非暴力抵抗行動のなかで、おそらくもっとも印象的で、もっとも知られているもののひとつです。「クエカ」はチリの伝統的なダンスで、色鮮やかな衣装をつけた男女のペアによって踊られます。軍政期に家族が行方不明となった女性たちは、このクエカをたった一人で踊りはじめました。色彩のない白黒の衣装をまとい、夫や家族の写真を胸に留めての踊りは、政治的なパフォーマンスであるとともに、いなくなった大事な人を思う行為でもあったのです。英国のミュージシャンであるステイニングは、1990年、この行動を歌った曲を作っています。

3 行方不明者はどこに? (作品5、8)

この作品群は内容としては「政治行動」の中にも含まれるとも言えますが、アルピジェラの主題としては数多く見られるもので、それ自体の位置を確立しています。「¿Dónde están?」はスペイン語で「彼らはどこにいる?」という意味で、行方不明者についての情報を求める家族や近親者の行動において繰り返し用いられた標語です。AFDDの略称で知られる「拘留者・行方不明者の家族の会」は中心となった団体の一つで、本展の作品のいくつかもAFDDのメンバーによって製作されています。

4 政治的抑圧 (作品12、15)

1973年から1990年までのチリは、政治的・社会的な表現や活動が激しく抑圧される状況にありました。辛苦に耐えかねて立ち上がった人びとのデモは暴力的に鎮圧されました。また政府を批判するメッセージを少しでも発したり、政治行動に関わったと疑われた人は、ある日突然姿を消していくのでした。そして多くの人びとが、後に遺体となって発見されました。

5 政治行動(作品8、9、19)

抑圧的な体制に抗して立ち上がった人びとの行動を描いている作品群です。その中心にあるのは、拷問など政治囚に対する人権侵害を告発していくものです。また、独裁体制に荷担した者たちへの恩赦に反対するメッセージを表明する作品もあります。熾烈な政治暴力の後に安易に「和解」を語ることの難しさが、ここにあらわれているとも言えるでしょう。「孤独なクエカ」に典型的に見られるような象徴的パフォーマンス、あるいはデモンストレーションなど、直接暴力を用いない行動形態が多いのも印象的です。

6 追悼・記念 (作品10、11)

軍政期に命を落したり行方不明になった人びとを、蝋燭をともして想起し慰霊する人びとを描いています。政治抵抗のメッセージは明白に示されてはいませんが、犠牲者個人個人を回想する行為は、二度と同じ事が繰り返されないようにという思いをも生み出します。陰惨な行いがあったことを忘れまいとする意志は、必ずしも過去に縛られていることを意味するのではなく、現在および未来のビジョンへとつながっているのです。

(酒井朋子氏の解説文より)

【年表】 アルピジェラと日本のチリ人民連帯運動

Arpilleras and Japanese movement of solidarity with Chilean people

- 1971年 チリ大統領選挙で人民連合のアジェンダが当選、初の社会主義政権樹立
- 1973年9月11日 軍事クーデター、アジェンダ死去。24日、ネルーダ死去。血の弾圧が始まり、世界中に抗議行動ひろがる
- 1973年9月30日 ヘルシンキでチリ人民連帯国際会議。53ヶ国、16国際団体の代表が参加。
- 1974年2月 チリ人民連帯日本委員会創立(代表幹事の一人に大島博光)
- 1974年3月 アジェンダ夫人歓迎連帯集会
- 1975年 アルピジェラ作業所が生まれ、次第にサンチャゴ中に広まった
- 1978年 チリでは海外からの連帯活動があつてアルピジェラが制作出来るようになった
- 1978年11月 マドリッドでチリ連帯国際会議、アルピジェラが展示された
- 1983年5月 チリ人民が公然と反軍政行動に立ち上がる
- 1987年9月 ミゲル・リティン監督(「戒厳令下チリ潜入記」)連帯集会(東京、名古屋、京都、大阪、神戸)
- 1988年 チリ人民連帯日本委員会がアルピジェラを輸入販売(高橋正明氏がたびたびチリ訪問)
- 1988年10月 ピノチェト信任の国民投票で「ピノチェト・ノー」の運動が勝利
- 1989年12月 大統領選挙でピノチェト敗北
- 1990年3月 民政移管
- 1991年3月 チリ人民連帯日本委員会解散
- 1998年10月 イギリスでピノチェト逮捕
- 1999年2月 ドキュメンタリー番組「パッチワークに願いを込めて」(1992年カナダTV局) NHK教育で放映 “Threads of Hope” produced by CANAMEDIA PRODUCTIONS 1992

【年表】 日本におけるアルピジェラ展

- 2008年7月 大島博光記念館創設
- 2009年8月 アルピジェラなどチリ人民連帯日本委員会の資料を高橋正明氏から大島博光記念館へ譲渡
- 2010年10月 特別展示「抵抗を縫うーチリのキルトにおける触覚の物語」 大阪大学総合学術博物館
- 2011年5～10月 企画展「愛と革命の詩人パブロ・ネルーダ」
 - 8月6日 映画「イル・ポスティエロ」鑑賞
 - 8月21日 記録映画「ベンセレモス」鑑賞
 - 9月11日 PHILIA project公演
 - 「from/to 9.11ピクトル・ハラの歌が殺されるとき」
 - 9月 小林秀一さん(小諸市)がクエカの説明
 - 11月19日 映画「ミッシング」鑑賞
- 2012年3月 酒井朋子先生が大島博光記念館訪問、調査
- 2013年2月 ロベルタ・バチチさんが大島博光記念館訪問、調査、講演
 - 5月～10月 企画展「チリのキルト=アルピジェラに出会う」
 - 7月27日 酒井朋子先生講演「世界を翔るアルピジェラ」
 - 8月25日 ドキュメンタリー「パッチワークに願いを込めて」
 - 9月15日 高橋正明氏講演「アルピジェラとチリの女性たち」
- 2015年3月 『世界のかわいいパッチワーク・キルト』(誠文堂新光社)でアルピジェラを紹介。
 - 11月5～30日 展覧会「アルピジェラ 沈黙のなかで物語る、チリのキルト」いわき芸術文化交流館アリオス
- 2017年5月～8月 「記憶風景を縫うーチリのアルピジェラと災禍の表現」仙台展・京都展・長崎展 「記憶風景を縫う」実行委員会
 - 5月～11月 企画展「アルピジェラ 軍政下チリの人々の暮らし」大島博光記念館